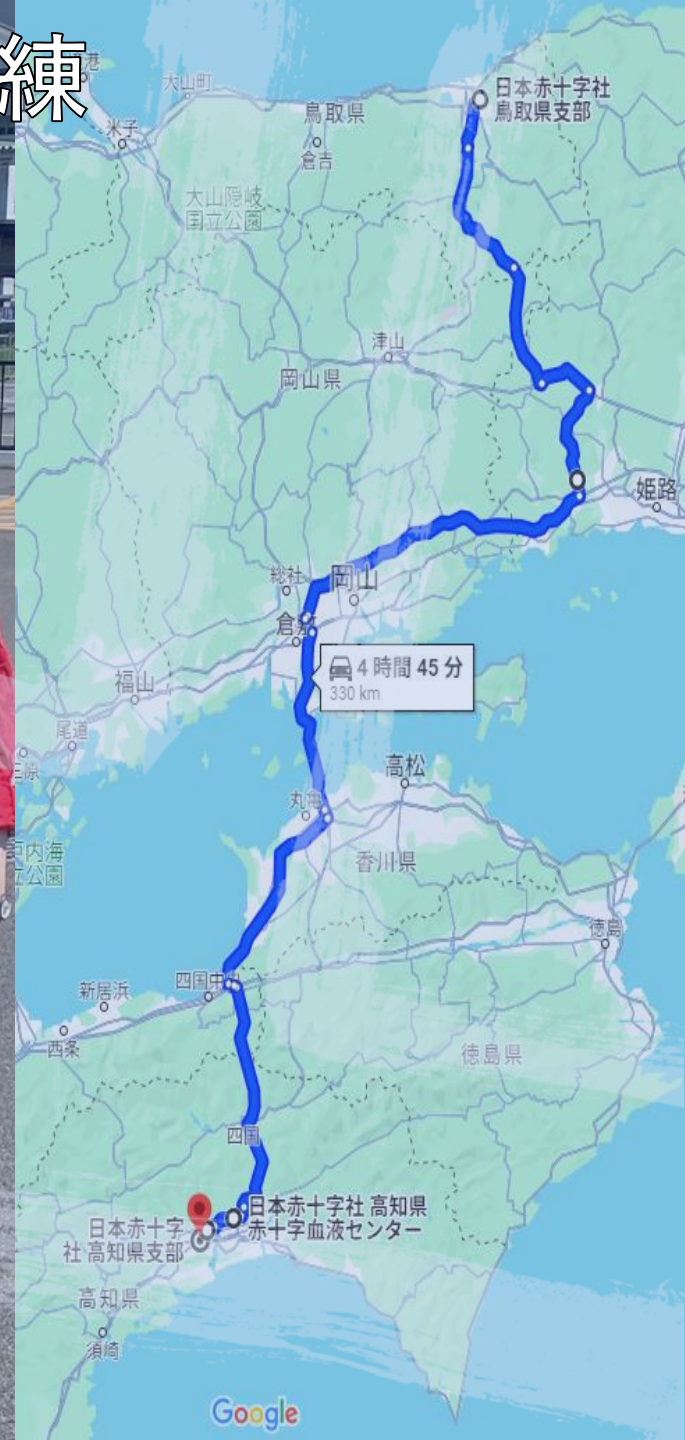


令和6年度高知県総合防災訓練 参加報告



日時 令和6年5月25日(土) 8:30～
令和6年5月26日(日) 23:55
会場 高知県各所
参加 日本赤十字社鳥取県支部救護班

(医師: 1名、看護師長1名、看護師2名、主事1名、災害対策本部要員1名)



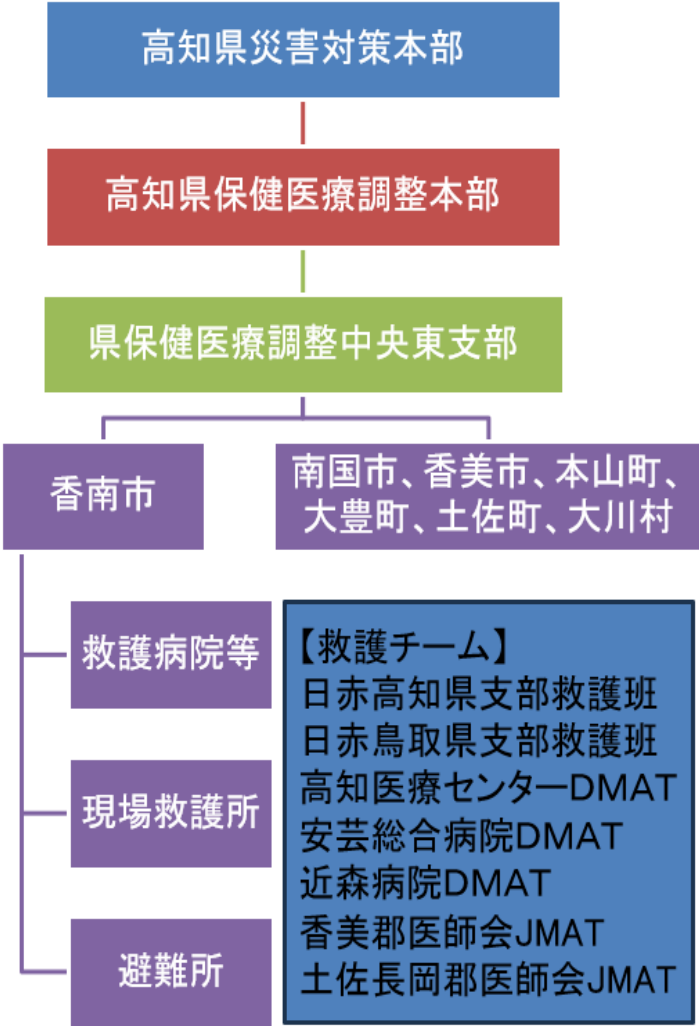
訓練目的

近年、発災が懸念されている南海トラフ巨大地震に対し「日本赤十字社南海トラフ地震対応計画（令和6年3月制定）」をもって主要被災地支部となる日赤高知県支部に対し、支援地支部である当支部から救護班派遣を実施して連携を強化することを目的とする。

訓練想定

令和6年5月26日11時40分、四国沖の南海トラフを震源としたマグニチュード9.0の巨大地震が発生した。
高知県内では、強い揺れが180秒程度続き、一部地域で最大震度7を観測し、沿岸部、平野部の広い範囲で最大震度7から6強、山間部でもほとんどの地域で最大震度6強から6弱を観測した。
耐震性の低い家屋が多数倒壊したほか、がれきの下敷きになった車両や、斜面の崩壊等により土砂に埋もれた家屋や車両が多数発生した。
海岸線では、地震発生の数分後から6～8m、ところによっては20mを超える大津波が繰り返し押し寄せ、大きな被害が出ている。

日赤鳥取県支部では日赤高知県支部への救護班派遣を決定し、津波想定エリア外である高知県赤十字血液センターに参集し、高知県支部災対本部要員と合流し、移動式基地局による通信の後、高知県支部災対本部に向かった。
高知県支部災対本部で香南市現場救護所および同市避難所での活動指示を受け、高知県支部救護班と共にdERUを展開し救護所を設置した。
救護所ではDMATやJMAT等の他機関と協働のうえ、多数傷病者対応を実施した。



日本赤十字社鳥取県支部救護班第1班の携行資機材

日本赤十字社鳥取県支部

【車 両】

アルファード（搬送不可、にっせきとっとり1、せきじゅうじとっとり1）

レジアスエース（搬送不可、にっせきとっとり2、せきじゅうじとっとり2）

【通 信】

日赤業務無線「陸上移動局（基地型）：にっせきとっとり6」

日赤業務無線「携帯局：にっせきとっとり105、せきじゅうじとっとり101」

可搬型衛星電話（BGAN Hughes9202M）

Wi-Fiルーター（docomo）×1、iPad×1、surface×1

【電源・燃料】

蓄電池×（中:1）

【救援物資】

毛布×10、弾性ストッキング×20

【食 糧】

レスキューフーズ×6、カップ麺×6、野菜スープ×6、飲料水×（2L:2）

鳥取赤十字病院

【通 信】

Wi-Fiルーター（docomo）×1、モバイルプリンタ×1、Let'snote×1

【医療資機材】

標準診療セット一式、事務用品セット一式、携帯型超音波器×1、吸引器×1、ベッドサイドモニター×2、酸素一式、AED×1、パルスオキシメーター×3、感染対策防護具一式、個人防護具一式

日本赤十字社鳥取県支部救護班第1班の活動

08:30 被災地に向け出発

14:00 日赤高知県支部現地災害対策本部（赤十字血液センター） 到着

- ・日赤高知県支部災害対策本部要員（吉岡事業推進課長）と合流
- ・日赤高知県支部災対本部に赤十字無線（移動局：にっせきとっとり）により通信

14:30 高知赤十字病院 到着

- ・吉岡事業推進課長より施設案内

15:00 日赤高知県支部災害対策本部 到着

- ・高知県支部災対本部から被災状況等の説明と活動指示（香南市現場救護所および避難所の展開、運営）
- ・研修受講「高知県における災害医療体制について（講師：中野事業推進係長）」

17:15 解散

07:15 香南市活動現場に向け出発

08:00 香南市活動現場 到着

- ・日赤高知県支部救護班と活動調整
- ・現場救護所（dERU）および避難所（ドラッシュテント）を展開

10:00 他機関救護チーム 参集・活動調整

- ・DMA T（高知医療センター、近森病院、安芸総合病院）、JMAT（香美郡医師会、土佐長岡郡医師会）

12:25 傷病者、避難者受入れ 開始

- ・傷病者約50名、避難者約156名を対応

15:30 訓練会場 出発

23:55 日赤鳥取県支部 帰着



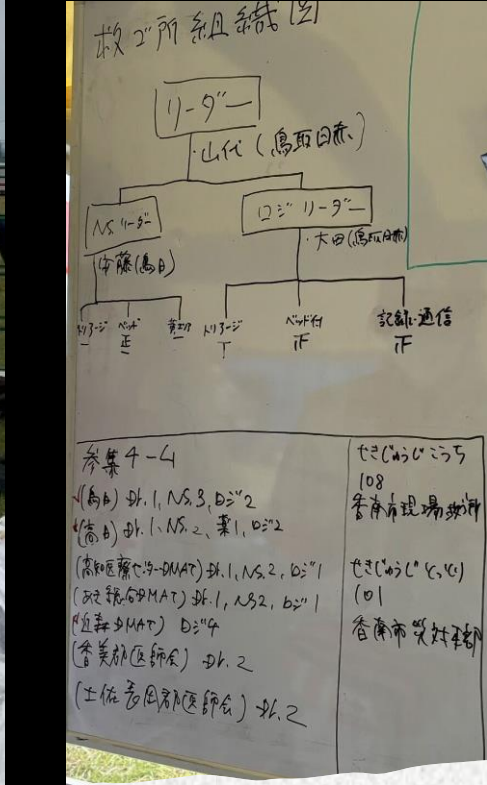
日赤高知県支部現地災害対策本部で通信（高知県赤十字血液センター）

- ・基地型移動局（にっせきとっとり6）及び車載型移動局（にっせきとっとり1）を使用して、高知県支部基地局（にっせきこうち）に入電の結果、メリット1を確認した。
- ・高知県支部吉岡事業推進課長に高知赤十字病院を案内いただいた。



日赤高知県支部災害対策本部に到着し、活動打合せと研修受講

- 高知県支部災対本部より香南市現場救護所及び避難所の展開・運営が指示された。
- 活動現場では日赤高知県支部救護班やD M A T、J M A Tとの協働が予定され、鳥取県支部救護班は統括リーダー班としての活動が決定した。
- 高知県支部中野事業推進係長より「高知県における災害医療体制」を講義いただいた。



- ・高知県支部救護班と協働して救護所と避難所を展開した。
- ・参集救護チームと全体及び職種別ミーティングによりチームビルディングを実施した。
- ・救護所はdERU、避難所はドラッシュテント大を使用して、全国的にも希少な資機材を体験した。



救護活動の様子（救護所・トリアージポスト）

- 多数傷病者に対して限られた支援チームと資機材により対応するため、トリアージ部門の増援や傷病者管理の一元化等、南海トラフ地震を想定した状況に工夫を凝らした。
- 南海トラフ地震では救急隊の不足が予測されるため、一次トリアージから救護チームで実施した。
- 赤傷病者約50名の対応に追われ、黄色エリア対応が追い付かなかった。



救護活動の様子（救護所・避難所）

- 南海トラフ地震では救護チームや資機材の不足が予測されるため、多数傷病者対応で通常実施するような“搬入部門”、“搬出部門”、“診療部門”、“本部”等を割愛して、傷病者管理等の記録・通信を一元化して対応した。
- 避難所では高知県支部救護班に対応いただき、妊婦搬送や薬剤相談等、医療的緊急性に対応した。



オフショット

【上】高知県支部のdERUがカッコ良くて、こっそり鳥取県支部救護所を掲げました。

【右上】赤十字奉仕団によるハイゼックス食を拝見しながら、キッチンカーに向かいました。

【右下】久々のドラッシュ展開にくたくたの班長です。

